

巻頭言

びわこ成蹊スポーツ大学

スポーツ開発・支援センター長 松田 保

1993年5月25日国立競技場においてJリーグ（サッカーのプロリーグ）がスタートして20年が過ぎ、「スポーツ文化が地域に根ざす、Jリーグ100年構想」の五分の一が経過した。ヨーロッパの先進国にはまだまだ及ばないまでも、10チームでスタートしたJリーグがJ1・J2合わせて40チームに増え、更にJ3構想（10～12チーム）も2014年度スタートに向け推進されている。バスケットボールのbjリーグも各地域で定着し、地域スポーツ文化は着実に前進してきたと言える。一方「スポーツ・フォア・オール」「スポーツでもっと幸せな国へ」を謳うスポーツ基本法が制定されて2年目となる。各地域の首長が具体的なスポーツ推進基本計画を定め、その理念を推進してゆかねばならないのだが、どの地域においても行政の優先順位は低く、スポーツが大きなムーブメントになっている地域はまだまだ少ないのが現状である。

「キッズからシニアまでのスポーツ・フォア・オール」を謳い、地域での一貫指導を具体化するためにスタートしたオリジナルのびわスポキッズプログラムも4年目となるが、着実に成果を上げ、フェスティバルや巡回指導も回を重ねるごとに充実し、滋賀県下一円に広がり普及しつつある。学びのパスポートであるキッズリーダーの公認ライセンスを持った学生たちが、地域の保育園・幼稚園・小学校にでかけ、子どもたちの発育発達に応じた育成プログラムを提供し、何よりも子どもたちが運動・遊びを大好きになることを最大の目標にして、スポーツの芽を育て、スポーツでもっと強く逞しい心と身体をつくり、誰もが生涯に亘ってスポーツに親しみ、楽しむためのライフスキルづくりに取り組んでいる。また、指導を通しての自分づくり・人づくり・仲間づくり・地域づくりの学びは、指導者や教員を目指す学生たちにとって大変有意義な活動となっている。子どもたちだけでなく教員や保護者・地域の方々と交流しながら、現場に相応した正しい指導実践の学びを深めることは学生たちにとっても大きな経験となり、キッズプロジェクトに参画した多くの卒業生たちが日本や世界の各地で指導者として活躍している。

運動・遊び・スポーツの大好き少年少女が生涯に亘ってスポーツを生活化してゆく100年構想は、世代連鎖を繰り返すことによって、やがて全ての国がスポーツ王国としての土壌をつくることになるはずである。誰もが基本的人権としてのスポーツの恩恵を享受し、「スポーツでもっと幸せな国へ」、「スポーツは世界を救う」のスローガンが実現し、世界中の誰もが幸せになるために、更なる努力と研究の積み重ねを大切にしてゆくことがスポーツ学の使命である。